

英語の絵本を読んで World Café

草薙 優加 深谷 素子

はじめに

World Café とは、カフェが提供するようリラックスした雰囲気の中で、立場や主張にとらわれず自由に意見を述べ合い「集合知」を生み出すディスカッションの手法である。昨今、高等教育では知識に重きを置く伝統的な学びから、思考力、判断力、表現力を重視する学習者主体の学びが求められている（文部科学省, 2014）。しかしながら、文部科学省、国立教育政策研究所（2014）の調査「大学生の学習状況に関する調査について（概要）」で報告されているとおり、「グループワークなど、学生が参加する機会がある」授業を受けた経験は全体の 51.2%、「授業中に自分の意見や考えを述べる」授業を受けた経験は 63.4%にとどまっている。一方、「授業中に自分の意見や考えを述べる」、「グループワークなど、学生が参加する機会がある」授業は現状のまま（つまり、少ないまま）でよいと回答した学生はそれぞれ 71.9%、67.8%であり、学習者主体型授業、双方向型授業に対する消極的姿勢が窺える。筆者らの教える英語授業でも、簡単な主題のディスカッションにもかかわらず、議論が活発に展開されないことが多い。そこで、本ワークショップでは、参加者が同じ絵本を読んだ後に World Café を行い、読者相互の交流を促進し、読書コミュニティを創出する活動を体験する機会を提供した。本稿では、筆者らの授業実践に参加した学習者の声を紹介し、日本の教育現場でこの活動をどう活用できるか論ずる。

World Café とは

World Café という用語は、Brown, Isaacs & the World Café Community が 1995 年に初めて使用して以来、世界的に普及している。近年、日本でもビジネスや NPO などの問題解決型議論をベースにしたワークショップなどに使用されている。World Café の 7 つの基本原理は、以下のとおりである（Brown, Isaacs & the World Café Community, 2005, p. 40）。

- 1) set the context 文脈を設定する
- 2) create hospitable space 暖かく居心地の良い空間をつくる
- 3) explore questions that matter 問うに値する質問を探求する
- 4) encourage everyone's contribution 参加者全員の貢献を促す
- 5) cross-pollinate & connect diverse perspectives 異なる視点をつなげて他花受粉する
- 6) listen together for patterns, insights, & deeper questions 浮かび上がる型、洞察、問いを傾聴する
- 7) harvest & share collective discoveries 集積知を収穫し分かち合う

特に語学の授業で World Café を行う際、誰もが気後れせず、自由に意見を言えるようリラックスした場をつくることは、心理的障壁（Krashen, 1982）を下げるために重要である。また、多様な意見や考え方に触れる（Isaacs & Brown は他花受粉と喩える）機会も設けたい。ディスカッションで得られた「知の集積」から革新的なアイデアを生成することも大切である。さらに、ディスカッションを豊かで意味のある活動にするには「問うに値する質問」が必要である（Brown, Isaacs & the World Café Community, 2005）。

大会ワークショップでは、参加者全員が同じ絵本 *The Missing Piece* (Siverstein, 1976) を読む Shared Reading の読後活動として World Café を活用し「*The Missing Piece* の世界を探求する」というテーマで議論を行った。実際の授業では、ディスカッションそのものに不慣れな学生が多い。その場合、このような大きなテーマではなく What do you think is the author's message? What was your favorite part (quote)? If you were to translate this book into Japanese, what would be the title? など、より具体的に話し合えるテーマを準備しておくことがディスカッション成功の秘訣である。中上級者～上級者は英語でディスカッションできるが、初級者～中級者では、母語、あるいは母語＋英語で実施するのが適当であろう。Shared Reading に使う本が絵本である場合には、参加者の年齢や興味に合った主題と内容の作品を選択することもディスカッションを成功に導く。

World Café の実施方法

まず、4〜6人くらいのグループに分かれる。World Café を行うためには、何度か異なるグループに移動できるように、グループを4つ以上つくとよいだろう。最初のグループがメンバーにとっての「ホーム」となる（表1参照）。

表1 World Café の実施手順

ラウンド	テーブル位置	主たる目的・内容
第1ラウンド	ホーム	テーマについて探求
第2ラウンド	他テーブルに自由移動	探求アイデアを他花受粉、テーマについてさらに探求
第3ラウンド	他テーブルに自由移動	探求アイデアを他花受粉、テーマについてさらに探求
最終ラウンド	ホームに戻る	気づき・発見を共有・統合、革新的アイデアの生成

各グループでホスト役（グループのファシリテーター）を一人決める。基本的に15分程度のディスカッションを数ラウンド行い、各ラウンドでメンバーを入れ替える。その際、ホストは移動せずにグループに残る。各テーブルに模造紙とペンを用意し、話し合いながら、気づいたこと、考えたことを自由に何でもメモする。メモは、文字、絵、記号など、どのような書記形態でもよい。落書、マッピングなど、メモの形式は問わない（図1は一例である）。教室環境によっては模造紙の代わりにA3用紙を数枚使用する、付箋紙を使用するなどで代用することも可能である。第一ラウンド終了時刻になったら、教員（全体のファシリテーター）が終了を知らせる。ホスト以外は、テーブルを移動する（ホームから世界へ、旅に出るイメージ）。ホストは、これまでの議論内容を新しいメンバーに簡潔に伝える。その後、新メンバーと議論を継続する。この流れを最低、第3ラウンドまで繰り返す。最終ラウンドでは、最初のテーブル（ホーム）に戻る。他のテーブルで得た意見を持ち寄り、議論を深め、アイデアの共有、統合をする。その際、模造紙上には今までのディスカッション内容の集積が残されているので、それを参照することもできる。テーマが問題解決型議論の場合、解決方法や結論を引き出す。最終ラウンド終了後、クラス全体で各グループのホストからの一言コメントや教員からのフィードバック等、振り返りの機会を設ける。本ワークショップでは、絵本の読後感のまとめ、および World Café に参加してみた感想を共有した。



図1 World Café 実施風景、記述例

World Café 実施の意義

通常のディスカッションと World Café によるディスカッションの違いは何か。World Café の特徴は、話した内容を書記し視覚化することで記録が生まれること、メンバーを固定しないディスカッションを数回行うことが挙げられる。そのことにより、以下の効果が生まれる。

- ・書くことでアイデアを可視化し、共有しやすくする。（単に話した内容は消えやすい。）
- ・書いてみると、次々アイデアが出てくる。
- ・話すのが不得意な参加者もアイデアを提供しやすい。
- ・メンバーが非固定なので、普段話さない人とも交流でき教室コミュニティが良好になる。異なる視点や多様性に触れることができる。
- ・他者のアイデアをもとに、さらに進化・深化することができる。
- ・記録があると後で分析もしやすい。

World Café における最大の貢献は「手で書く」という行為に尽きる。書くことによってアイデアが可視化されて次々と、または同時多発的にさらなるアイデアが出てくる。近年の研究では、タイピングよりも手書きの方が記憶力向上と学習効果が高いという結果も出ている（Mueller & Oppenheimer, 2014）。手で書きながら話し協同で理解を深める World Café は、活発な言語活動を促す効果が期待され、授業で指導する価値が高いと考えられる。

World Café の実践例

筆者らの *The Missing Piece* を用いた Shared Reading の実践に対する学生（国立大学教養英語授業、理系、初級、N=105名）の感想は、若干名が難しさを訴えたが、概ね肯定的であった。以下は代表的な感想である。

- ・自分とは違う意見、見方、解釈が多くあり、はっとすることがあった。
- ・話したことがない人とも交流できてよかった。
- ・自分では全く理解できなかった話がある程度理解できた。
- ・どんなことを話せばよいかなかなかわからず大変だったが、結論を出すことができてよかった。
- ・上手くディスカッションができず大変だった。話題が尽きてしまった。

おわりに

以上、World Café の利点、実施方法、参加者の反応等を述べて来た。香取 & 大川 (2009) は、World Café の成功には、1) World Café の実施が適切か、2) 各テーブルで対話ができているか、の 2 点を確認することが欠かせないと言う。クラス全体のファシリテーターである教員は、小まめに机間巡回をし、ディスカッションが活発になるよう助言をする必要がある。香取 & 大川は、World Café の各ラウンドでは自分の意見や立場に固執せず、ゆったりと話し合うこと、また、メンバーの発言に耳を傾け、一人のつぶやき、ふと思ったことなど、偶然に起こる現象を大切にすることが重要であると言う。そして、誰かの考えが他のメンバーに波及するようにディスカッションを広げられれば、充実感を持ってディスカッションを振り返ることができるはずとも言及している。加えて、有意義なディスカッションにするには、参加者が World Café のテーマに関心を持って参加することも肝要である。Shared Reading を行う場合は、テキストや問いの選定だけでなく、事前にテキストを十分に読むこと、文化背景等のスキーマを形成するウォームアップ活動などが不可欠であろう。日本の大学生の多くは、このような学習者主体、相互交流型の活動に慣れておらず、中には居心地の悪さを感じる者もいるだろう。香取&大川 (2009, p.198) は「World Café の終了後にも残った違和感を大切に、その後も考え続ける」ことに意味があるという。そのことにより、さらに理解や考えが拡大、深化するだろう。また、World Café に参加したことで、他者との対話の楽しさや意味を見出した学生たちは、「教わる」から「学ぶ」という自律性を身につけることが期待される。World Café は「管理」から「協同」へという教育のパラダイムシフトをも可能にするかもしれない。

注

本報告書は、学術研究助成基金助成金 基盤研究 C 課題番号 2452067 「複合的多読授業の研究：フィンランド式教育法に基づくアクティビティの開発」の助成を受けている。

謝辞

ワールドカフェへの扉を開いてくださった NPO 法人あきたコアセンターの吉田理紗氏ならびに、科研費共同研究の一環として本 World Café の企画実践に貢献した成蹊大学の小林めぐみ氏に感謝申し上げます。

参考文献

- Brown, J., Isaacs, D., & World Café Community. (2005) *The world café: Shaping our futures through conversations that matter*. San Francisco, CA: Bernett-Koehler.
- 香取一昭 大川恒 (2009) 『ワールド・カフェをやろう！会話がつながり、世界がつながる』東京：日本経済新聞出版社
- Krashen, S. (1982). *Principles and practice in second language acquisition*. Oxford: Pergamon.
- 文部科学省 (2014) 「大学教育部会の審議のまとめについて (素案)」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/015/attach/1318247.htm (April 20, 2015)
- 文部科学省 国立教育政策研究所 (2014) 「大学生の学習状況に関する調査について (概要)」
http://www.nier.go.jp/04_kenkyu_annai/pdf/gakushu-jittai_2014.pdf (April 20, 2015)
- Mueller, P. A., & Oppenheimer, D. M. (2014) The pen is mightier than the keyboard: Advantages of longhand over laptop note taking. *Psychological Science*, 25, 1159-1168.
- Silverstein, S. (1976). *The missing piece*. NY: Harper Collins.